

働きすぎ黒書 ニュース

全日本教職員組合（全教）生権局

東京都千代田区二番町 12-1 3 F

2007年2月15日

教師の仕事はパソコンワーク！？

小学校教師の妻を支える夫

小学校教師15年目になる妻は、今年度は5年生の担任である。ここ数年、毎年のように担任する子どもたちの数は40人である。40人という数は、教師を経験したことのない者にとっては、その数が教育実践のうえで多いのか少ないのかは、なかなか想像のできないことである。学級担任制をとる小学校の場合、教科指導から生活指導に至るまでの情報ファイルが満載された40個のフォルダがあるようなものである、と活字とパソコンをにらみながらの事務系の仕事をしている私（夫）には思える。

しかし、ファイル満載の40個のフォルダを毎日まいにち、一度に全開してみたり、それぞれのフォルダのなかから1個ずつ取り出して作業することを想像してみると、これはデスクワークとして相当にハードな仕事であることにはちがいない。確かに、40個のフォルダを「顧客管理システムにしてしまえば！」なんて考えてみないでもないが、小学校教師の抱えるフォルダのなかのファイルは、多種多様なソフトでつくられた不定形のものばかりである。顧客管理のようにきれいにシステム化できるような代物ではない。

ところで教師という仕事の365日の中には、40個あるフォルダのうちの一つが突然開かなくなったり、どこかに行方不明になったりするからたいへんである。行方不明になったフォルダは、どんなことがあっても探し出さなければならない。これはパソコン単体ですむ話ではなく、ネットワーク上の問題になる。ネット上に紛れ込んだフォルダを探し出すのはたいへんな作業である。他の仕事は当然、一時ストップせざるをえない。

一方、突然開かなくなったりしたフォルダもこれまた厄介である。電源を切って再起動をかけた、いろいろな開き方を試みたりするがそう簡単に開いてくれるものではない。時には、フォルダのなかの不定形なソフトをつくった会社（親）に電話をかけた、しなくてはならない。それが職場からならまだしも、家に帰ってきてからもしなくてはならないのだからたいへんである。生活を共にする者としては電話代が気になるほどに長電話になることもある。なかには、開かないでしばらく様子を見た方がよいフォルダもあるらしい。

教師の仕事は、決して日中の職場つまり学校だけでは終わらない。ネットワークの時代である。帰ってからパソコンを開きフォルダを一つ開いてはファイルを取り出し、入力・削除を行いフォルダにもどす。それを繰り返しているうちに、ウトウト・・・。

ところが最近、教育行政サイドから正真正銘本物のファイルがフロッピーディスクに保存されて、教師に配られている。中身は研究授業用の指導案作成ファイルなどである。ワードやエクセルで作られているが、パソコンワークが本業であるはずがない教師にとってはなかなか面倒な作業のようで、私（夫）に仕事がまわってくる夜も少なくはない。

そんな40個のフォルダを抱えながらの教師にも、我々社員と同様に管理監督する人たちがいるらしい。特に最近5年ぐらい前あたりから、そのにらむ眼が異様にきつくなったように思うと妻はいう。確かに近年、日本の学校教育のCEO（最高経営責任者）は、霞ヶ関から永田町に移ったように聞いている。学校を株式会社に変えようともしているのだろうか？

ハードな教師生活を送る妻に「あと何年続けられるかな？」などとぼやかれるのが怖くて、ストレス発散のために和太鼓を習いたい、というワガママを最近聞き入れている。毎週日曜日の夕飯前に、子ども2人と私、障害をもつ年寄りを残してルンルン気分が出かける。もちろん夕飯づくりは私。次の日から始まる1週間のパワーを充電するためらしい。